

改革フォーラム 研修報告書

研修先	第60回 自治体学校 in 福岡
日時	2018年7月21日 13時～17時
場所	福岡市民会館
テーマ	地域・くらしに憲法をいかす自治体づくり
対応者 (講師)	石川捷治 九州大学名誉教授 太田昇 岡山県真庭市長
概 要	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 石川捷治氏は、昭和19年10月中国東北部・大連市に生まれる。大分県臼杵市に引き上げ。父親はシベリア抑留で死亡。九州大学法学部長、同韓国研究センター長なども務める。政治史、地域研究、平和学などが専門。 2. 太田昇氏は、京都大学法学部を卒業後、京都府庁に入庁。平成25年2月京都府副知事を辞職。同4月より真庭市長就任。現在2期目。 3. 真庭市について、岡山県の北部に位置する。今回の豪雨では、鉄道が寸断され、バスを再開させる予定。平成17年3月末真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村、上房郡北房町の9町村が合併し誕生。 4. 合併から13年、各地域の多彩性を活かした広域行政を推進し、合併効果を生み出している。一方、人口減少、高齢化、交付税特別措置による税収減、公共施設の統廃合等課題も山積み。 5. 人口46,000人、面積828km²。気候は北部豪雪、南部温暖少雨。標高110～1202m、土地は山林約8割、田畑8.2%。 6. 市政の方向について、「行政は市民の幸せづくりを応援する条件整備会社」。 7. 中山間地域の「不利」を逆転の発想。少子⇒少ないからこそできる個性に合わせたきめ細かな教育。8月完成のこども園＋小学校はすべて木造。高齢化⇒知恵と経験のある人がたくさんいる。中山間地⇒豊かな自然、精神的安らぎ、自立性の高さ。山はお荷物⇒地上資源の宝庫、エネルギー自給、雇用・産業・観光事業等の創出を実現。全小中学校へバイオマス電気を提供。製材所は8か所あり、林業労働者は、脱サラや年収2千万もあり。 8. 真庭市では、地勢を活かした里山資本主義に挑戦している。大きな里山資本主義として、真庭市全体で、豊かな森林資源を生かしバイオマス発電を核とした地域全体での資源循環・活用。小さな里山資本主義として、地域の特性・資源を最大限生かした物づくり、人々の交流、永続的な地域を作っていく。真庭市役所本庁舎は、100%再生エネルギー、木、太陽、人で動いている。 9. 生ごみ・糞尿を使ったエネルギーと液肥づくりも着手している。 10. 出生率は、1.82。給食は小中1800人完全給食(1食750～1000円)。地産地消、地元農家の市場も再建しようとしている。第3子無料化、公会計化している。 	

画像（略）

所 感

みやま市の太陽光を中心とするスマートエネルギー事業視察に続き、真庭市のバイオマスエネルギー事業について、学んだ。エネルギー事業は、里山資本主義をめざす真庭市においては、林業と共に基幹産業にもなろうとしているとのことだ。

国連・国際社会が求めるSDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）に合致する自然と共生する政策が成功している。

成果は市民に還元され、出生率は、1.82。給食は小中1800人完全給食（1食750～1000円）。地産地消、地元農家の市場も再建しようとしている。第3子無料化、公会計化しているという。

各自治体が、政府がモデル提示する似通った市政ではなく、地域の宝・資源に目を凝らし、それらを活かした市政の方向を見出すことが真に求められる。大野城市の地域資源・宝は何だろうか。交通の便、残された自然、太陽、人、日本最古の朝鮮式山城大野城を中心として歴史・文化、・・・。

研修を活かして、地域の宝に目を凝らし、長い目で市民の幸せにつながる施策の方向性を探っていきたい。—作成者 松崎百合子—